

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400153		
法人名	有限会社 楽舎		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 宇賀の里 楽舎		
所在地	島根県 出雲市 奥宇賀町23番地10		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成30年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県 出雲市 今市町650		
訪問調査日	平成30年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に自宅での生活と変わらない様に過ごして頂くため、出来る事・分かる事をきちんと見定めた上で、日常生活上における役割や日々の楽しみをそれぞれに持って頂き、生き生きと過ごして頂く様、支援をしている。「想い出の場所への外出」「リクエストメニュー」など、利用者様の希望も積極的に取り入れ、一人一人に選択肢を持って頂き、自由度の高い生活を送って頂く様、心がけている。家族様との関わりも、面会時もゆっくり居室で過ごして頂く、毎月の手紙で本人様の状態を報告する、交流行事へ参加して頂く等で、密に連絡を取り、「ここで良かった」「安心している」と思って頂ける様、「愛・家族・絆の架け橋に・・・」の理念の実践に向けて日々取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念が職員に浸透しているか否かは日頃の仕事に表れる。職員にとっての理念は自分が働くうえでの行動指針になり、理念の共有が同じ目的に向かって業務が行われている事を感じた。施設にはおいてもなく、木目調で温もりが感じられる。食事3食手作りで、調査当日も旬を意識したメニューになっていた。新しい管理者のもと、グループホームに入所したら何がしたいかという事を運営推進会議で話し合い、今期は希望の多かった外出支援をより意識したケアを行っている。内部、外部への研修参加を積極的に促したり、お菓子作りが得意な職員にお菓子作りを任せするなど、評価制度に合わせて職員のやる気を引き出す制度や風土も整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時、スタッフルーム内に掲げた理念を必ず出勤者全員で唱和し、共有し、毎朝理念に1度立ち返る事を行なってから、入居者の支援に入る様、取り組んでいる。	忙しい毎日の中でも理念を毎朝唱和し共有して施設の理念に立ち返って考え一つひとつのケアにおける振る舞い方が定まっていることを感じた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校や保育所、ご近所さんとの行事を通じて交流を行い、繋がりを維持している。また、地域の自治会開催の「敬老会」行事等に出掛けていく様支援をしている。	小学校、保育所との交流や、ぼた餅づくり、笹巻き、カレーライス作りご近所の方を封書で案内して呼んだり、大正琴、日本舞踊、銭太鼓多い時は月に3~4回近隣の方を呼ぶ行事を行って交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1年に1回地域のお祭り「ひらた福祉フェスティバル」に参加し、入居者と音楽療法の発表を行う事で、認知症の人の理解や啓発に向けての取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回それぞれテーマ(議題)を決めて開催しており、様々な立場の方と共に相談や報告や連絡等を行う事で意見を取り入れ、日々の支援に役立っている。	運営推進会議でグループホームで何をしたいかの話し合いを行った。外出、散歩等出たことを行えるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問に思った点や報告すべき事由が発生した場合は、すぐ連絡をとる様にしている。また運営推進会議の場でも意見を必ず聞き、取り入れる様にしている。	法改正で身体拘束についての(していない場合の時)などの相談を行ったり、運営会議の中でも相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「鍵をかけない支援」を日々ケアの理念の一つとして行っている。また、3ヶ月に1回「身体拘束廃止委員会」を開催し、拘束における具体的な行為に当たる事などの勉強会を持つようにしている	～しない取組み、言葉遣いが失礼になっていないかなどの意識作りを大切にして勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束廃止委員会」又は月に1度開催している事業所内全体研修会にて、虐待についての研修を行っている。外部研修にも出掛けている。日頃からスタッフ同士で声を掛けあいながら虐待の見逃しが無い様、気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度の事業所内研修の際に、入居者の権利擁護についての研修を行っている。また他事業所が開催する研修にも参加する様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族が不安を持たない様、十分な説明を行っている。特に退居の際の留意点や事故についてや料金面についての説明は丁寧に行い、理解・納得をしてから入居をして頂く様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際やケアプラン説明・同意の際に意見を聞き、日々の支援に取り入れている。	計画の内容が変わる場合の家族との話し合いや意見の取り入れ、運営会議での意見を聞いて日々の支援に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時(10時)に必ず、意見交換や提案、事案の検討会などを行っている。他にも何かあった際は、随時聞き取りを行う様にしている。	朝の申し送りや、全員が共有できるノートを作り、(目を通してあるか全員のサインがある)特変がある時はスタッフで検討して意見交換を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れ、1年に1回自己評価と外部評価を行い、その結果を処遇に反映させている。また資格手当や役職手当も付ける様にしており、向上心を持って資格取得や役職をとったスタッフは、給与も上がるしくみをとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回事業所内の全体研修会を行い、定期的な勉強会を行う機会を設けている。外部の研修も案内文書を申し送りノートにて全員周知する様にし、希望があれば参加出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業者連絡会青年部会の交流会参加、グループホーム連絡協議会の交流会や研修会開催時には、スタッフに積極的に参加する様、呼びかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメント時、前ケアマネジャー・病院等からお話を聞き、ご本人様・ご家族様の要望を聞き取り、より良い支援に繋がられる様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	小さな事まで気軽に相談して頂き、コミュニケーションを図っている。支援方法も密に連絡・説明し、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様から得た情報や希望をもとに、前ケアマネジャー・かかりつけ医と情報交換連携を取り、可能なサービスの提案をし、納得された上で、サービスを利用して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など、ご本人の出来る事を見極め、自分の役割として頂ける様、支援したり、教えて頂きながら活躍の場を作る様、努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙や面会時に日頃の様子をお伝えしている。地域行事や楽舎行事、運営推進会議にも参加して頂く事で、共に支えられる環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方や友人・知人等、いつでも面会に来て頂ける環境を整えている。また馴染みの美容院へも出かけている。	地域の敬老会に参加したり、面会に来たりされる方も迎え入れている。馴染みの美容院にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係や状態を把握し、一人一人が孤立しない様、お互いが支え合える様、座る場所や環境等を整え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも思い出の写真・動画・メッセージをアルバムにして届け、また必要に応じて退所先や家族様へ必要な情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、好きな物を聞いたりして希望が叶う様にしている。入所前に家族からも聞き取りをしている。言葉でうまく伝えられない方は、家族様から再度聞いたり表情から汲み取っている。	入所の時に暮らしの情報ノートを作り、好みや生活歴、好きだったこと等聞く。又普段の生活の中からも聞く努力を行っている。本人が一瞬でも笑ってくれる状況をいつも考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にしっかり接している。家族へも入所前に聞き取りをし把握に努めている。また何気ない会話の中から生活歴を聞いたり、家族様面会時に話を聞いてスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況表を始めとする各種一覧表にて、一目で分かるようにしてあり、朝・夕の申し送り時スタッフは状況を把握出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の思いを大切にし取り入れる様にしている。入所時や面会時に要望などをお聞きし(本人・家族)、より良いその人らしい生活が送れる様に介護計画を立てている。	スタッフ全員でその人らしい生活を検討。介護計画が変化のある時は家族にも説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づきを毎日の記録に記入し、申し送り時に口頭でも話す事で、スタッフ間で情報を共有している。その結果をモニタリングし、笑顔で過ごせる様なプラン作りに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様が遠方だったり、なかなか来れない場合、受診対応・美容院外出などヘルパータクシーを利用し、対応している。外出・外泊はいつでも自由に出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育所・小学校・地元のボランティアとの交流行事を積極的に行っていると共に、地域の集まりの会に出掛けていく(敬老会等)事もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(協力医療機関)との24時間オンコール連絡体制がしっかり取れている。協力医療機関以外への受診や、遠方につき家族対応にて受診が困難な方はヘルパーに依頼し、支援を受けている。	かかりつけ医との連絡はしっかりできており、協力医療機関以外の受診も家族やヘルパーに依頼し支援をうけられるように行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルに異常があればかかりつけ医に報告・指示を受けながら看護を行っている。看護師とも24時間オンコール体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院相談員と密に連絡を取り合い、情報を得ている。又入院中スタッフがお見舞い・面会に行き、その際にも情報の交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化する事に家族様に説明し、かかりつけ医(協力医)との連携を取り、支援を行っている。また、重度化の指針も入所時に説明している。	重度化の指針は入所時に説明を行っている。状況の説明はその都度家族に説明を行い対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全入居者様のカルテに個別の119シート・119マニュアルが備えてある。AEDの使用法・救急対応の事業所内研修会も年に最低1回は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回実施し、スタッフは利用者様個別の身体状況及び避難誘導方法を把握している。消防訓練及び身体状況の変化の都度、避難誘導方法は見直しを行い、一覧表にて周知している。	一人一人の写真、避難方法、名札を作っており、いざというときの避難方法は都度見直ししている。 今年は大雨が多く、実際の避難はなかったが、連携しながら対応を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守り、その方の性格やプライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。	言葉かけや対応についての研修を行ったり、日々の生活での意識の持ち方について気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で、ご本人の好きな物、行ってみたい所等の希望を聞き、選んでもらい、自己決定につながる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご本人の気分や体調、気持ちを尊重し、その時々状況に応じた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限りご本人にその日着る洋服を選んで頂き、個別におしゃれを楽しんで頂ける様、心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事だけでなく、毎日の食事やおやつ作りも、回想法を取り入れながら、希望を取り入れ、利用者1人1人が出来る範囲内で一緒に準備・片づけをしている。	毎食手作りのため、その時に食べたいものを入所者の方に聞くなどして作っている。手伝える方には手伝ってもらい、楽しむ食事作りをスタッフと共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の身体測定から一人一人の状態を把握し、一人一人に合わせた量、形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1日3回必ず口腔ケアを行い、一人一人の状況に応じた介助・支援をしている。また定期的に歯科衛生士による口腔内チェックも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛けや誘導、一人一人のタイミングを見てリハパン・パット交換を行っている。チェックシートの活用や日々の申し送りで、排泄パターンの把握に努めている。	排泄については、タイミングを見て行っている。動きが活発になる時が排泄の時であったり、日々の生活の中でもスタッフで検討し行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食後、午前・午後の水分摂取量をチェック表に記入している。朝食後にバナナ・ジョアをお付けし、自然排便の促しや便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望や体調を見て、お声掛けをして入浴して頂いている。一人ずつゆったり入浴出来て、時には柚子を湯舟に浮かべたりと、季節を感じて頂きながら、入浴を楽しんで頂く工夫も行っている。	ご本人の状況にあわせての入浴を行っている。入浴も生活の中の楽しみの一つとして行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝は長時間せず、日中は活動的に動いて、夜はグッスリと眠って頂く様、支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ずご本人の前で日付・名前・食後と声に出して確認。ご本人が服用出来たかもしっかり確認している。薬情報提供も個別のケース記録に保管し、用法・用量や作用についても把握出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の流れの中でご本人の出来る事をして頂いている。家事参加(食器拭き・洗濯物たたみ等)を始め、個別外出や花壇の水やり、音楽鑑賞等々それぞれの方の楽しみごとを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には季節を感じてもらうためのドライブに出掛けたりしている。地域の行事にも参加して楽しんで頂いている。個別の希望に沿った「思い出の場所への外出」も支援している。	外出については一人一人の想いをくみとっての外出をしたいという想いがスタッフも強く、支援している事がわかった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっているお金で欲しい物、必要な物を買ってお渡しし、財布を持参されている利用者様はスタッフが確認の上、所持して貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と連携を取りながらご本人の希望があればいつでも対応が出来る様にしている。毎月、お手紙で家族様へ楽舎でのご様子を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁飾りを皆さんで作って展示したり、おやつ、食事等で季節を感じて頂き、ホールのソファにて和んで頂いている。	季節の花や季節にあった手作りの壁飾りや書道が壁一面に飾られている。臭いのない空間と共に居心地のよい共用空間で入所者の方がなごんでおられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の居室でTVを視られたり、カセットテープを聴かれたり、ホールのソファで談話されたり、眠りこまれたり、将棋をしたりと思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家と同じような環境作りで、愛着のある様な物を使用して頂き、安心して過ごして頂いている。	使い慣れた家具や家族の写真の飾られた居室で自分の家にいる空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は安全に生活が出来る様、動線に物を置かない事や、常に整理・整頓に心がけている。また入居者様の目線の高さに合わせて張り紙や目に付きやすい赤色でラインをし、目につきやすさの工夫もしている。		